

# 高退協ニュース

高知高退協  
事務局  
1998-3-17  
No.91

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内二丁目一〇番八  
TEL 088-811-6822  
FAX 088-811-6822  
振替口座 徳島 51-1-1893

## 「国のかたち」を争うたたかいに ― 参議選のとりくみについて ―

ご承知のように、参議選は投票日まであと四カ月足らずとなりました。橋本自民党内閣とそれを支える総与党化路線による悪政の数々は、国民各層に大きな怒りをよびおこしています。高知県でも、政治情勢に大きな変化がみられます。保守層といわれる人々の中にも、政治の転換を求める声が広まりつつあります。参議選高知選挙区は、今や西岡、森下両陣営の対決となる中で、西岡当選の条件はますます成熟しつつありますが、端的に言って、この有利な選挙情勢に対応するとりくみが立ち遅れています。「西岡必勝」のためには、具体的なとりくみを一段と強める必要があります。

高退協事務局は一月二十日の事務局会議で討議の上、次のように当面の選挙方針を確認しました。

(1) 二月十日の「西岡さんを励ます会」には最低五十名が参加しよう。(この件については、文書、電話でお願いした結果、多くの皆さんに参加していただき、全体で一千六百名の集会となり成功しました。)

(2) 西岡後援会に積極的に加入しよう。全体目標は五月末で一〇万人の達成となっています。なお、得票目標は一九万六千です。(前回の西岡さんの得票は一八万五千です)入会申込み(送料無料)がついたリーフを同封しますので、まだの方は送付下さい。

(3) 資金カンパに協力しよう。県下全体で三千万円のカンパがよびかけられています。高退協としては一口千円で三〇〇口、三〇万円を目標にとりくむことにしました。昨年の動評カンパに続いて負担をおかけしますが、趣旨を諒とせられて拠出せられるようお願いいたします。(振込み用紙を同封してあります。)

(4) 西岡・栗原共著「無党派の挑戦」の購読、普及に協力しよう。同封のチラシを参照してください。

今後も逐次、とりくむべき活動についてご連絡しますので、よろしくお願いいたします。現在の情勢はただならぬものがあります。私たちに関係の深い教育の問題をみましても、一月に開催された全教、日教組の全国教研等で報告されていますように小学低学年でも、まともな授業が出来にくくなってきています。更に、中学生による女教師刺殺という痛ましい事件も起こっています。これらに象徴される教育の荒廃状況の深化はいわゆる現在の「国のかたち」の反映でしょう。教育をはじめ、あらゆる面でのゆがみを正す「国づくり」が急がれています。これからどのような国を造っていくか、今回の参議選の重大な争点です。会員のみなさんの積極的なご協力を心から訴えます。

二月 十七日 高知高退協事務局

## 高退協定期総会と 退職者を励ます会のご案内

恒例の上記催しを次の通り行いますので、ぜひ参加くださいますようお願い致します。

### 記

とき 4月25日(土)

ところ 高知城ホール

2時30分から 定期総会(3階) 県教組会議室

5時から 退職者を励ます会(4階)  
会費 5,000円

なお「励ます会」に参加される方は、準備の都合上、4月20日(月)までに下記までご連絡ください。

菊一郎	0888	(75)	4564
藤田和江	0888	(44)	0333
窪田清	0887	5(2)	5617
高教組	0888	(22)	6822

### お願い

会費未納の方へ



会費の納入が色々の事情で遅れている会員の皆さん、年度末がきました。恐縮ですが、お早めにご送金ください。

## 老声草

▼昨年十月に訪ずれたネパールのことである。面積は北海道の一、八倍、人口は二千万。年間五〇万にもものぼる人口増加で多くの課題をかかえているが、最大の悩みは生活燃料確保の問題。外貨不足に加え、インドによる経済封鎖で石油製品は枯渇煮炊き、暖房は森林の伐採に頼っている。統計によれば年間国民一人一トンの木材を消費している▼さすがに広大なヒマラヤの山地も荒廃の一途を辿り始め、雨期に降る大量の雨は一気にガンジス下流の平原にあふれ出る。インド、パングラデシュでは一度の洪水で数千万の住居が失われている▼乱伐による木材不足は家畜の糞までを肥料から燃料に変えた。肥料不足は農地の生産性を極度に低下させ、今や九人を養うのに一ヘクタールの田畑が必要とのこと▼ネパールの森林減少は地球の温暖化にも影響を与えていると思われる。なんとかしなければ、環境悪化は取り返しのできない事態に突入するだろう。▼今のような市場原理一点張りでは、世界は環境面から行き詰まる。地球規模での経済の計画化が急がれる。資本主義万能論では二十一世紀はもたない。社会改革の新しい理論が求められているようだ。(幹)

### 職美展開かる

★★★★★★★★★★★★

今年の職美展は、二月十七日から二十二日の間、上四ボプラ会館で開催されました。高退協会員で出品されたのは次の十七名の方です。  
南千加良、中村晋一郎、永吉海心、浜田隆史、笹田かず、熊沢徳郎、上久保靖史、野島幸代、竹島寛之、上田進雄、町田祐一、中田四一、坪井幹之、山本圭一、谷山紗栄、小川逸雄、小松蓮子  
出品名簿によると、出品点数一六五点、出品者六六人、参加校一四校・四グループとなっています。往年に比べると、多忙化の反映か、やや寂しい感が否めません。来年に向けて、今から創作に励みましょう。(坪井)

「秦泉寺日記」抄 坪井 幹之

十一月

「十二日」老泳会。最近の研究によると、週一回の一回の時間の激しい運動は、ガンの免疫性を高めるとのこと。はりきって泳ぐ。

「十九日」老泳会」で市営プールへ。街は車が多い。今や「師走」は「車走」に。

「二十二日」高退協文書発送準備。十時より作業開始。送る文書は機関誌「こうたいきょう」、「高退協ニュース」、「全退教ニュース」、それに

家路

片岡 文雄

日ぐれ につぼん列島のどこの小学校の校庭に向かつて設けられたスピーカーからも決まって流される曲がある。ドヴォルザークの交響曲第九番「新世界より」そのうちのよく知られたラルゴ「家路」だ。植物学の牧野富太郎が生まれた小さな町。ここ高知は佐川町の小学校でもそうだ。

もうおうちに帰りましょう というおんなの子のアナウンスとともにそれが消えていくのを わたしは 目を閉じてきいている。小学校からはさして遠くはない県立高校の。しかし三階にある定時制職員室で。まもなく 夜間の授業が始まる。

ラウドスピーカーからは「家路」を流すことのできない学校。わたしが そのことに気づいてからでも 久しい。こどもばかりでなく大人も ともかく 家路についた。それぞれの軒の奥に無事に消えていった。それなのに わたしの生徒たちは 夜が更けて息ひそめるようにして帰っていかねばならない。面倒なのは 定時制へでも。そういつて吹きよせられてきたのだ。どこに たしかに 一筋の道が見えてくることか。

ほとんど黙礼だけで ここ数年 どうしてもモノ言わないS子。暗いからといって つとめの美容室もやめさせられた。母の連れ子として入った家で S子は理由のない理由で父になぐられ続けている。学校が消灯したあと 近くの橋上でぼんやり佇っているS子の姿を見ることがある。あれはいいメロデーだね と わたしが言えなくなつてからでも さて どれほどになるか

(定時制教員控え帖)

(註)片岡文雄氏は、高退協にこの詩を寄せ、次のように書いています。「置き去りになつていく子どもたちの悲しみ、淋しさ、すすり泣きを、教師がどれほどに共有しようとしているのか、それが「改革」の根幹だと思ふ。導くということを思う前に、共有することではないでしょうか」と。

「西岡ニュース」の四種類。終了後、簡単な連絡会。「お疲れ様、では、よいお年を」でお開き。

一月

「五日」小寒。年始恒例の高退協・山の会共催の「ハイキングと新年宴会」。八時、朝倉駅集合。参加者四十一名。初顔の人多く、参加者数は今までの最高。宗安寺、朝倉神社、朝倉城址、針木浄水場と巡つて、国立病院近くで解散。第二部の宴会は春野運動公園の「スポーツパレス」で。こちらの方の参加者は三十三名。新年宴会らしく和気藹々で終



わる。お当家に当たられたみなさん、ほんとにご苦労さんでした。(来年のお当家は佐川地区にお願いする予定)。「九日」老泳会」。入り口に「賀正」の飾りが残る市営プールで初泳ぎ。「十日」北欧ツアー」の打合せ会を開く。参加者二十二名。議論を交わして日程、期日等の調整についての旅行社への要望をまとめる。「十三日」米寿」の祝いに井口町の森田安雄先生をお訪ねする。職場が一緒であった田所さんに同行をお願いする。先生はお元気で仏・露二カ国語のテレビ講座も視聴しておられる由。激励申し上げて退去。

「十七日」とりもどす会」の活動者会に出席。各団体・地域よりの百八十名近い参加者で満席。報告、挨拶を受けて十五名の代表より発言あり。山原さんより西岡必勝の条件はあるが、とりくみのテンポが遅いことが強く指摘される。「二十日」今日は大寒。二時より高退協事務局会議。参議選のとりくみについて協議、二十七日に再度事務局会議を持つて対応することになった。終了後、「竜馬茶屋」で有志による交流会を持つ。「会のことには一杯」という高退協

俳句

「仁ノ浜どんど祭」

1月25日 春野町

吉本 伸秋

万葉の宮守る浦や吉書揚

縄文の火鑽火高く吉書揚ぐ

小笠原さちを

まつ直ぐにどんどの揚る浜日和

どんど果つ浜に五色の石拾ふ

「国分川野焼」

2月1日 南国市

吉本 伸秋

西古市東古市野火煙り

野火猛る方へ自づと歩の動く

小笠原さちを

対岸に野焼きの狼火まづ揚る

畦焼の四角々々に火を這はせ

事務局のよき(?)伝統が復活しつつあり。「二十三日」老泳会」に参加。全員揃う。

「二十四日」第43回読書会。6名の参加。テキストは「ソ連はどういう社会だったのか」。テーマがテーマだけに、いろいろ意見は出たが、まとまった論評にはならず。次回3月には、「南京の真実」と「南京事件」を取り上げることに。新自由主義史観にも言及する予定。

「二十七日」臨時事務局会議。「西岡さんを励ます会」案内の準備。あと、若干の打合せ。帰りに会員宅十二軒を廻り案内状を届ける。「三十日」老泳会」。久しぶりに二十五米を一息で泳ぐ。帰途「昼食会」の話が出る。

「三日」節分。九時、山原事務所へ。電話で「西岡さんを励ます会」への出席をお願い。一時より「建国記念の日反対集会」実行委員会に参加。早速、役員のみなさんに集会の案内状を送る。「六日」老泳会」。午前中にプールへ。偶然、赤禪がたの東元善次郎先生にお会いする。元気な様子。毎回、七百五十米を泳いでおいでのこと。帰りにステークの会食。

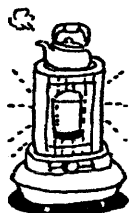
「八日」山の会」二月例会。繁藤駅から山田駅まで八時間をかけて歩く。参加者二十名。天気予報は晴。寒波の影響で強風、粉雪の舞う「雪中行軍」となる。標高四百米の大法寺観音堂で昼食。「四国のみち」を経て山田へ。時間の関係で予定していた駅前食堂で一杯はお流れ。三月は善蔵街道の早春ウォーキングを予定。

「十日」西岡さんを励ます会」に参加。一千六百名で会場満席。盛り上がる決起集会となる。「十六日」明日より「職美展」がらくた焼き一四点を搬入。「十七日」高退協事務局会議。参議選のとりくみを中心に当面の課題について協議。四時半から後援会と共同の決起集会に参加。

「二十二日」職美展」終わる。比較的出品の多かったのは、わが高退協と土佐高。これも職場の多忙化の反映か。夕方、作品を搬出。

### 3・1卒業式平和を願って 保護者へのピラ配り

今年も現職からの要請を受け市内4校(西、小津、丸ノ内、追手前)で、近くの人に呼びかけて君が代、日の丸押し付け反対のピラを配りました。しかし、参加者14名、ちよつと淋しい一朝でした。



### △会員の消息

(森田安雄さん)  
(井上寿枝さん)  
米寿おめでとうございませう。内規によりお祝いをお届けしました。皆様によるしくとのことでした。益々お元気で。

(依光貫之さん) △南路志全十巻完結、永年の編纂に具出版特別賞を受けられました。  
(中内光昭さん) △DNAがわかる本、岩波書店より出、寺田寅彦記念賞を受賞されました。  
(市川まささん) △藤の咲く道、あすか出版より出版。  
(別稿)  
(片岡文雄さん) △流れる家、思潮社より出版、現代詩人賞を受賞されました。  
(関田孝司さん) 英文随筆集、CHIT・CHATの総集編を出版されました。皆さん力作、おめでとうございませう。

(近森実男さん) リハビリ病院に再入院しました。  
(川村耕三郎さん) 近森病院に二ヶ月あまり入院していましたがいまはお家で療養中です。  
(溝淵和江さん) 南国の農協病院に入院。いまはお家で療養中です。

皆様のご全快をお祈りします。  
事務局では会員の動静について連絡を待っています。

### 片岡文雄詩集「流れる家」

(星洲社刊 本体二六〇円十税)  
常備店—金高堂、同朋舎ブックセンター、  
富士書房、星ヶ丘アートヴィレッジ

### イエティ(雪男)のたたり

上岡 積

2 山ではお酒がしみとおる  
ゴレバ二時から前半のハイライト、標高3193mのブーンヒルに登る前夜、ビール、ロクシー(地酒)で軽く乾杯をして、踊り上手なロッジの娘さんやシエルバのテンバさん達とネパールダンスでズンチャツチャ、ズンチャツチャ、夜の更けるまで大いに盛り上がりました。久しぶりに飲んだビールのせい? いやいや、やビールなどは入山した屋から毎日毎夜、ロクシー・ラム・日本からはるるる同行した日本酒に至るまで何でもござれ、さすがは土佐の善男善女たち、こんなに飲むパーティは初めてだか。(田邊ご夫妻は紳士、淑女で飲まれません)翌朝、懐中電灯の光をたよりにブーンヒルめざして急な坂道を登りはじめました。そのうちあちらこちらのロッジから、三々五々頂上を目指す人々が集い来て登山道に



### 「老・眼・鏡」

#### 「藤の咲く道」

市川まさ先生 薄い上品な小豆色の布張りの装丁である。市川先生が心をこめて作られた御本だと思ふ。あとがきで先生は内容を三部に分けて、Iは身近な人々との絆を、IIは孫たちを外国に訪ねた経験を、IIIは山の作品を集めたと説明していられる。フイクションもあるそうだが、主人公は等身大の先生である。読んでいくと先生の話される口調そのまま、その時々のお顔もお姿も想像できる。ああこんなふうになるらしていらつしやるんだなあと、日常をゆるがせなく丁寧に生きていらつしやることに感銘した。勿論御夫君も登場する。奥さんに随分気を遣わせているなあと、思うが、奥さんの同人誌のタイプも打つし、お嬢さんの風疹騒ぎでは、冷静な判

は長蛇の列ができ、ミニ富士登山の様相を呈してきました。雲つくような大男が私たちを追い抜きざま、「ブレイキング・ナンバー1」と言ったのは、ほんとは山と思わず笑ってしまいましたが。山は苦勞して登るものです。正面にアンナプルナサウス、右手にダウラギリI、V、左手にマチヤブチャレその他7、8000m級の山々が遮るもの何もない眼前に圧倒的な威容をあらわし、そのたたりまはせぬ。刻の経過につれて微妙に変わるその姿に、つまでもいたい、帰りたくない、そのような気持ちで山を下りました。道端には雨季の名残の可憐な花も見つけられます。  
そしてその夜、またまた感動の嵐、背筋に戦慄が走る体験をしました。夜中に目覚めてロッジの窓から眺めた風景です。凍りつくように静まり返った夜空の中、月の光に浮かび上がった白い稜線、そそり立つピークの青白さとバツクの深淵、神々しいという以外にふさ



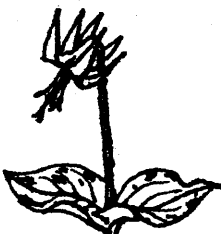
断で暗雲を吹き飛ばす。団体旅行の経験しかない私は、お嬢さん一家を訪ねて外国に滞在するお話が興味深く羨ましかつたが、私が一番好きなのは「物部川」である。先生のおぼあさんのお話である。みさ子がいづも遊んだ物部川。みさ子の祖母はその上流の上生から下流の美良布に嫁いでくる。花嫁が父と兄に伴われて舟で物部川を下って婚礼に臨む場面は美しく、婚礼の風俗もしつとりと心を打つ。私には物部川に心を寄せる先生に、吉野川を愛してやまない大原富枝さんが重なった。  
「藤の咲く道」の藤は物部川の岸辺を彩る藤であり、その道は、先生の故郷の美良布や物部川に帰る道、懐かしい肉親や思い出の人々に通う道でした。(坂本)



わしい言葉は見当らず、茫然と見惚れて再び床に就くのが惜しいほどでした。旅は続き、あと1時間で前半の行程を終える最後の昼食地・ビレタンティ。ご一行様の顔にも安堵の色が浮かびます。  
さあービールだ、ビールだ。一気に飲み干すのどこぞの感触、それにもまして細胞の隅々までアルコールがしみ渡ります。顔もホンノリ桜の皮色。これでは足元を見られても仕方がありません。実際に品物を並べていた売り子達もにわかには活気づき、ネックレス、飯面などを手に手に私たちに攻勢をかけてきます。  
「ママサンミテクダサイ」  
「トモダチノビジネスネ」  
「ワタクシラーピンボウデス。ミテクダサイ」  
「ブツブツコウカン、ブツブツコウカン」  
狭い谷間は、たちまちうるわしい国際交流の場となりました。どなたが得して誰が損をしたか、それは山の神様とバツカスのみがございます。

### 正誤表

- 訂正のお願い
- ①「こうたいきょう」第十八号
  - 「DNA」こぼれ話「3頁下段8行目「交換」↓「変換」
  - 34頁下段15行目「横網関係碑」↓「相撲関係碑」
  - 38頁上段9行目と下段終から2行目「児島貞二」↓「小島貞二」
  - ②高退協ニュースNo.90
  - 4頁最下段終から11行目「九州場所」↓「九州場所」
- 重要な言葉のミスプリント、お詫びして訂正いたします。編集委員



### 高教組便り

梅原 憲作

前回の「A高の実態報告」は一旦中断し、この二カ月に間に高教組の代打席に二度立ったことを報告したい。その一つ、今年度の全国教研の伝統ある「平和教育」に県教組も高教組も代表を送れないというピンチ、締切の数日前に「高校生」の国際交流と社会的影響―その相乗・複合的効果―なるレポートを急遽でつちあげた。

その内容は、高知の高校生たちの二度の韓国平和の旅、市商生徒会のラオス支援、今年のベトナム高校生との交流など90年代の自主活動の発展と現状、到達点をまとめ、「影響」の一つとして私の高知大で関わった平和教育講座での大学生が高校生から学び影響を受けるといったものである。提出レポート数は32本、日教組教研時代より多くはないが、30〜40歳台を中心とした若い層の実践が目立ち、修学旅行でも広島・長崎のみから沖繩・韓国まで広がり、特に事前・事後指導が全教科や学年教師集団で取り組まれ、その多様で創造的な実践に脱帽。本県「のスキー研修など」教育改革のなかで見直しはいかなるものかと感じた次第である。

一つの特徴は、高校生たちのさわやかな言動が、大人たちを励まし大きな力になつていくということ。95年少女暴行事件後の普天間高女生徒中村さんの訴え、代理署名に応じた大田知事を、大人が冷たい視線を向けるなか、夏の全国集会代表たちは「私達が力足らずの結果」と励ました。注目したいのは千葉や長野高で進んでいる学校平和宣言や友好条約締結運動である。言行不一致、公約不履行の大人たちに自ら「宣言」し実行する。「軍事同盟の強化でなく、日米や日韓高校生友好条約の締結運動は新しい高校生を取り組み課題とみた。」

埼玉高の若い先生が私の「資料」の「なぜ『空襲展』を18年も続けたのか」続けられたのか、「庶民のなかの非戦を貫いた人」入野松原を守る。従軍慰安婦を逃がすの二行に質問の矢を向けてきた。彼は最近「教え子を戦争展に送ろう」と展示活動を始めたという。その真剣な眼差しが群馬を後にする私の心に残った。

帰りの旅のひとつときを、上野東照宮にて。  
庭師らの  
我娘愛でるごと  
冬ぼたん  
(その二。静岡―焼津―3  
・1ピキニで―は省略)

### 北欧3カ国ツアー

- 7月13日より25日まで(13日間)
- 【ノルウェー】 オスローベルゲン―ゾグネ―フィヨルド―ヨステダル氷河―ガルドピゲン山
- 【スウェーデン】 ラップランド国立公園―ケブネカイセ山―ストックホルム
- 【バルト海の豪華船による船旅】
- 【フィンランド】 ヘルシンキと周辺の旅行

参加ご希望の方は坪井(75-0998)まで

### 退職予定者への説明会

今春退職予定の先生方(20名)に対する高教組の説明会が1月31日午後高知城ホールにおいて、10名の参加で行なわれました。高退協から岡崎副会長が出席し、まず、先生方の長年の活躍に敬意を表しました。そして、高退協の規約や活動方針を説明し、「これからの第2の人」と高退協に加入されて、お互いに健康で有意義な日々を送りましょう」と訴えました。

### 相撲三知識 二十五

林 勤



### 大相撲を支える人々(1)

○親方(1)

はじめに 大相撲の主役は言うまでもなく力士であるが、親方、行司、呼出し、若者頭ほか多くの部署―人々―によって大相撲は成り立っている。それぞれについて順次述べさせていたただく。

一般に親方株と言われているが、相撲協会は、大鵬の三十回目の優勝(最終的には三十二回優勝)を記念して功績を称えて一代年寄大鵬を贈った。また、北の湖も優勝は二十四回であるが傑出した横綱であったので、同様に一代年寄北の湖を贈られた。都合、現在は一〇七の親方株がある。一〇五の親方株は、幕内一場所全勤以上、十両で連続二十場所または通算二十五場所以上出場の有資格力士に譲渡でき、例えば五十代横綱佐田の山(前理事長)の「第十二代家系同様」に続いてゆくが、

### 今春の退職予定者

丸の内	北屋	岡田	山田	東商	市商	盲ろう	ろ口	江草	若田	高岡	大須正	中工	西村	幡多	宿農	宿毛	大村	中村
三善	井本	岡本	渡辺	坂本	高橋	安井	正岡	塩田	濱田	尾崎	小川	上野	吉見	横山	筒井	河原	平井	山崎
純一	孝二	京子	礼賀	奈賀	潤子	和雄	光雄	能子	友子	多治	志一	都雄	正雄	美里	美智	美江	公夫	正寿

一代年寄は譲渡できない。大鵬・北の湖両親方が六十歳で定年退職をすれば、大鵬部屋、北の湖部屋はそれで終る。相撲協会は優勝三十一回の千代の富士にも一代年寄を贈るつもりであったが、千代の富士は「ずっと続いてゆく一般の部屋(親方)の方が良い」といつて辞退をした。相撲協会は、その代りに、「平山郁夫画伯の富士山の絵(十二号大)」を贈り特別顕彰をした。―現在九重親方―

親方には部屋持ちの親方と部屋付きの親方がある。今年の初場所終了時点では、部屋持ち親方が五十人(相撲部屋が五十六人)、部屋付き親方が五十六人。空株(あきかぶ)が一つである。このことについて具体例を一つ挙げてみると、二子山部屋(親方)の貴ノ花(父親)、二代目若乃花、隆三杉らが引退して、貴ノ花は本家二子山(部屋)、若乃花は独立して間垣(部屋)という部屋持ちの親方となり、隆三杉は藤島として二子山の部屋付き親方になっている。本県出身の朝潮は部屋持ちの若松親方になっている。特別な事情で部屋が閉鎖されたり、部屋付きの親方が部屋を構えて独立する等、相撲部屋の数は変動することがある。(つづく)